

ラバル大学研修を終えて

森林科学科 1回生 菊池美帆

この研修を通して、カナダ東部の森林について多くのことを教えて頂き、実際に見学し、多くのことを体で感じ、学ぶことができました。個人で訪れる旅行では絶対に体験ないような本当に貴重な経験となりました。

私が特に強く感じたことは、カナダでは自然の再生力や自然に生えている植物を農業に用いる、などして天然のものを多く利用しているな、ということでした。というのも、カナダでは林業も主に天然林を伐採し、その後も植林などは行わず自然に目が出て木が生えてくるのを待ったり、自然発生の山火事も自然のサイクルと捉えていたりしていました。他にも、農業に以前から生えていたブルーベリーを利用するなどしていました。

この点は日本の林業、農業とは大きく異なる点だと感じます。日本では植林をして、間伐を行って、他にも多くのケアをして、、それでようやく利用できる木ができます。ですから、多くの手間も必要となります。カナダではその手間もなく、さらに多くの作業が機械で行われていたので、重労働もあまりありません。同じ林業なのに、こんなにも仕組みが異なるのか、と驚きました。

けれど、これはどちらが良い、というものではなくどちらのやり方にも利点、欠点があると感じたのでそれをこの先も深めて考えつつこれから森林科学を学んでいくうえで生かしていきたいです。

また、この研修では、多くの説明を英語で聞く機会がたくさんありました。日本で勉強しているだけでは専門分野を英語で理解することはなかなかなく、とても勉強になりました。ただ英語で雑談をするのではなく、専門的な話を聞く、質問するのははじめての機会です、とても難しかったけどワクワクしました。みんなで教えあいながら理解していく過程で日本人学生同士の絆も深まったと思います。専門的な英語力はこれからに必要な力であるので、その力を磨く第一歩となりました。

このような多くを学び、経験し、そして楽しめる（一番重要ですが！）研修に参加できたことに心から感謝しています。

最後に、この機会を与えてくださった方々、カナダで多くを教えてくださった先生、学生さん、通訳をして下さったり私たちのために多くのことを企画、調整して下さった長島先生、研修を共にした学生の皆さん、本当にありがとうございました。